

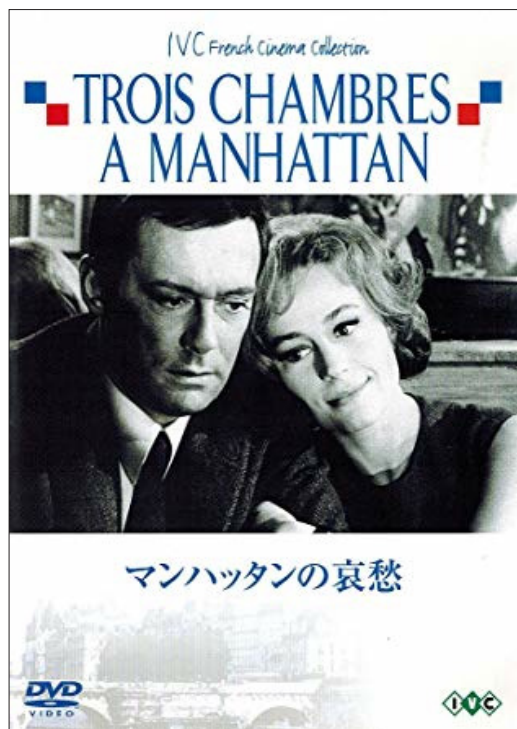
2018.10.18

vol.70

# シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画  
を  
読む

## 本日の上映作品 『マンハッタンの哀愁』



『天井桟敷の人々』のマルセル・カルネが、マンハッタンの夜を舞台にしっとり魅せる、孤独な男女のふれ合いを描く恋愛劇。妻に裏切られ、傷心の思いでパリからマンハッタンへやって来た俳優・フランソワは、とある裏町の酒場で外交官の夫と別れたばかりのケイに出会い、二人はお互いの傷心を癒すかのように惹かれていった……。

監督・脚本：マルセル・カルネ

撮影：オイゲン・シュフタン

出演：アニー・ジラルド、モーリス・ロネ

ガブリエル・フェルゼッティ

ジュヌヴィエーヴ・パージュ

ロバート・デ・ニーロ

製作：1965年 フランス モノクロ 104分

『字幕の名工』秘田余四郎とフランス映画	高三 啓輔／著	白水社	778.09
『一秒四文字の決断』セリフから覗くフランス映画	山崎 剛太郎／著	春秋社	778.235
『中条省平の秘かな愉しみ』	上野 千鶴子／著	第三書館	778.04
『文学と映画のあいだ』	野崎 歓／編	東京大学出版会	778.04
『タッチで味わう映画の見方』	石原 陽一郎／著	フィルムアート社	778.04
『シネマ処方箋』 精神科医がすすめる、こころにスーッと効く映画	高橋 祥友／著	梧桐書院	778.04
『ぼくが映画ファンだった頃』	和田 誠／著	七つ森書館	778.04
『最後の映画日記』	池波 正太郎／著	河出書房新社	778.04
『トラウマ恋愛映画入門』	町山 智浩／著	集英社	778.04
『これは映画だ!』	藤原 帰一／著	朝日新聞出版	778.2
『シネマディクトJ』の映画散歩』フランス編	植草 甚一／著	晶文社	778.2
『女と男の名作シネマ』極上恋愛名画 100	立花 珠樹／著	言視舎	778.04



## コラム『マンハッタンの哀愁』

### マシュマロみたいな大人の恋物語 K.M.

今回上映の『マンハッタンの哀愁 (1965年)』は、『天井桟敷の人々 (1945年)』の名匠マルセル・カルネ監督が、中年男女の心理の移ろいを繊細なタッチで謳いあげた大人の恋物語です。男は妻に去られた元人気俳優フランソワ、女は離婚したばかりの元外交官夫人ケイ。絶望のうちにヨーロッパからニューヨークに渡った二人が、ある夜、マンハッタンの場末の酒場でふとしたきっかけで知り合い、成り行きに任せて結ばれ、嫉妬と猜疑心にさいなまれた挙句の果てに、深く愛し合うことになる物語です。

フランソワを演ずるのは、『死刑台のエレベーター (1957年)』や『太陽がいっぱい (1960年)』で脚光を浴びたモリス・ロネ。ケイを演ずるのは、本作で1965年度ベネチア国際映画祭女優賞を受賞したアニー・ジラルド。原作は『メグレ警部』もので著名なジョルジュ・シムノンの『マンハッタンの三つの部屋』です。タイトルも舞台もニューヨークですが、主要スタッフと主役のいずれもフランス人のフランス映画です。

そのせいでもないのですが、この作品の冒頭のシーンはマンハッタンではなくパリなのです。メインタイトルが出る前に唐突に映画が始まりますので面食らわないで下さい。実はこのシーン、フランソワの妻が男をつくり「悪いけど出て行くわ。彼が外で待っているの」と言い置き、突然去っていったパリの一夜のことを、マンハッタンのアパートのベッドでフランソワが思い起こしている回想シーンなのです。やがて回想から覚めた彼が、夜の裏街に出かけていくところでオープニングクレジットが始まります。タイトルバックは摩天楼がそびえるマンハッタンの夜景。知る人ぞ知るジャズ・ピアニスト、マル・ワールドロンによるジャズナンバーが、しっとりロマンティックにムードを盛り上げます。そして彼と彼女の運命的な出会いの夜が始まります。

フランス語なまりの英語が通じなくて、バーに入ったフ

ランソワが何度も言い直すと、たまたまカウンターの隣に座っていたケイが、聞き取りやすい英語で注文してやる、これがきっかけで二人の異邦人が知り合う。ケイが空のタバコの箱を取り出すと、フランソワが何気なく自分のタバコを差し出す。ケイと別れようとして、朝、安ホテルを抜け出したフランソワが、マンホールから噴き出す水蒸気を見て、前夜、ケイと夜の街をさまよった時、「千一夜物語の魔人が好き」といった彼女の言葉を思い出して、まだ眠っている彼女の枕元に戻ってくるくんだりなど、男女の無言の対話や暗黙の感情表現などの独特の語り口で、嫉妬心や猜疑心に苦しむ中年男女の孤独感や恋愛心理を細やかに描き出していき、カルネらしい演出に知らず知らずのうちに引き込まれていきます。

私が一番好きになったシーンは、ケイが同居するようになって、部屋が見違えるほど整頓され、フランソワが起きたらテーブルには朝食のセッティングがなされ、笑顔のケイが熱いコーヒーを淹れてくれる。ジョルジュ・シムノンの原作は読んでいませんが、いかにも彼の叙情性があふれ、コーヒーの香りがただよってきそうなシーンです。

勿論これでハッピーエンドというわけではありません。カルネ作品及び原作小説のタイトルは『マンハッタンの三つの部屋』。その意味はケイとフランソワが初めて愛を交わす安ホテルの一室、次に二人が生活を共にするフランソワのアパート、それから映画のラストで暗示される、二人が再出発を目指す第三の部屋、それら三つの部屋のことでしょう。第二の部屋から第三の部屋にかけて、波乱はさらに続きます。ただ興味深いのは、この作品の登場人物は、それぞれにいい加減で無責任なところもあるし、つきあいたくない連中もいますが、どうしようもない性悪が一人もないことです。本作の総ての波乱を「そこそこ」に収める、生活の知恵に対するカルネとシムノンの温かい目が感じられます。

## 9/20 『市民ケーン』の感想

・本日、やっと出会え、大変うれしいです。『名画中の名画』、胸ワクワク最良の日でした。オーソン・ウェルズの凄さをあらためて実感しました。人の人生を、どうあるべきか考えさせられました。濃縮した映画でした。生涯の「テーマ」を与えられたようです。

・人生で大事な物は何か、考えさせる映画だった。

・家族との思い出、雪と Rose Bud のソリ。家族愛は、幼少期になくしてはならないもの、一生大切なものですね。

・愛がほしかっただけ、名声ではない。愛をなくした、愛を離れたところが一番問題あり、悲しいところです。愛が一番大切ということを教えられました。難しい映画であるが考えさせられました。

・今から 60 数年前に観ましたが、もう USA でもこんな大作はつくれないかも。『第三の男』(ウィーンが舞台)のオーソン・ウェルズ、ジョセフ・コットンの名コンビ大変よかったです。帰宅してから DVD を再び見ます。

・ごめんなさい。意味がわかりませんでした。

・家で DVD で見た時、気付かなかったところがわかりました。よく金をかけたものですね。樹木希林さんが亡くなりました。『あん』の再上映を希望します。

・愛が伝わらないって悲しいものですネ。見たい。

<前回コラム追伸>

子供たちに幸せな記憶を！ K.M.

アニメーターの宮崎駿監督が 2008 年 11 月 20 日、有楽町の日本外国特派員協会で、最新作『崖の上のポニョ』や現代社会に対する不安、自らの映画哲学などについて語った際の記録「[http://bizmakoto.jp/makoto/articles/0811/28/news011\\_4.html](http://bizmakoto.jp/makoto/articles/0811/28/news011_4.html)」の中に、次のような発言を見つけました。

“…僕もずいぶん探しましたが、「結局楽園というものは、自分の幼年時代にしかない、幼年時代の記憶の中にだけ楽園はあるのだ」と、このごろ思うようになりました。親の庇護を受け、多くの問題を知らないですむわずか数年の間だけでも、その時期の記憶の世界の中にだけ楽園はありますよ…” 宮崎駿



注意



上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようにお願いします。上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。

### サロン・ド・シネマについて

10月から、ホールホワイエにて寄付金でお茶菓子の提供をしています。映画の上映前にご利用ください。但し、「夜の部」には開催しません。

りぶらホールにはヒアリンググループが設置されています。補聴器を利用されている方は、Tモードに切り替えてください。



### 今後の上映のご案内 (上映作品は変更になる場合があります。)

第 72 回	1 月 17 日 (木)	『私の頭の中の消しゴム』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第 73 回	2 月 21 日 (木)	『チャップリンミュージュアル社時代 1』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:15 ~
第 74 回	4 月 18 日 (木)	検討中			
第 75 回	5 月 16 日 (木)	検討中			



## 第71回上映会のご案内

## 第72回上映会のご案内

### 女だけの都

LA KERMESSE HEROIQUE

字幕上映



### 私の頭の中の消しゴム

A MOMENT TO REMEMBER

字幕上映



**12月20日 (木)**

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

17世紀初頭、フランドル地方のボーム市は、スペインの虚名の統治下ゆえの繁栄を享受していたが、年に一度の祭りを明日に控え、凶暴で名を馳せるスペイン軍来訪の報を聞く。不甲斐ない役人どもは市政の表舞台から姿をくらまし難を逃れようと、突然の市長の死をでっち上げた。男はみな服喪し、もてなしは女の役目となり、予想外に穏やかなスペイン兵たちはよろしく歓待され、何の波乱も起こさず、一年の免税措置の恩典まで市に与え去っていく。

監督：ジャック・フェデー

出演：フランソワーズ・ロゼー

ジャン・ミュラー

製作：1935年 フランス モノクロ 114分

**1月17日 (木)**

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

建設会社の社長の娘スジンは妻ある男性と不倫の関係にあったが、ついに破局を迎える。その夜、傷心のまま彷徨っていた街で一人の男性チョルスと出会う。やがて再会した2人は、ほどなく恋に落ち、幸せの中結婚する。甘い新婚生活に浸る2人だったが、いつの間にかスジンの物忘れが度を越したものとなっていく。心配になって医者に診てもらったところ、若年性アルツハイマーという思いもよらぬ診断結果を告げられるのだった。

監督・脚本：イ・ジェハン

撮影：イ・ジュンギユ

出演：チョン・ウソン、ソン・イエジン、  
ペク・チョンハク、パク・サンギユ

製作：2004年 韓国 カラー 117分